

第2章 雪寒事業の現状と課題

雪国は、かつて冬期には積雪による長期間にわたる交通の途絶により、産業経済活動の停止や生活の不安に悩まされるとともに、凍上による道路の破損等が地方自治体に与える財政負担が大きかった。このような状況に加えて、戦後、急速に自動車の普及が増加傾向にあったことから、このような現象を自然現象として放置することなく、雪寒地域の産業の振興と民生の安定を図るため、雪寒事業（除雪、防雪、凍雪害防止）を実施してきた。雪寒事業による施設整備もある程度進み、雪国の冬期間の交通確保が図られるようになってきているが、高齢化の進行や住民意識の変化など社会状況の変化により新たな課題が生じてきている。一方で、除雪延長は伸びているが、我が国の財政状況を考えると雪寒事業について、現在の水準を大幅に上回る投資は困難であり、冬期交通確保に向けて様々な工夫が求められている時代になっている。

以下に、現在の雪寒事業の課題について述べる。

1. 冬期における安全な幹線ネットワークの確保に関する課題

冬期における安全な幹線ネットワークの欠如

雪寒事業では、積雪地域内の道府県道以上の道路の約8割をカバーする約60,000kmの除雪が実施されるなど、広域的な幹線ネットワークの確保に向けての取り組みが行われている。

しかしながら、雪国では、冬期になると幅員の減少や路面の凍結など運転しにくい路面状況の発生、吹雪等の視程障害により著しく走行環境が低下する。その結果、旅行時間が夏に比べて最大2倍以上にもなる幹線道路もあり、日常生活や社会経済へ多大な影響を与えている。

特に、迂回路のない道路においては、豪雪・雪崩などにより通行不能になると、通行車両は復旧まで待機せざるを得ない状況になり、沿線住民の生命を支える救急車両等にも影響を及ぼすこととなる。

また、高速道路の通行止めの約60%以上が雪による通行止めとなっており、広域的な経済活動や地域間交流を阻害する大きな要因となっている。

このため、引き続き安定した幹線ネットワークの確保を図り、基礎的な生活条件の安定的な確保や地域間交流の支援の強化を図っていくことが必要である。

冬期における安全な幹線ネットワークの欠如 積雪地域内の道府県道以上の道路の約8割をカバー

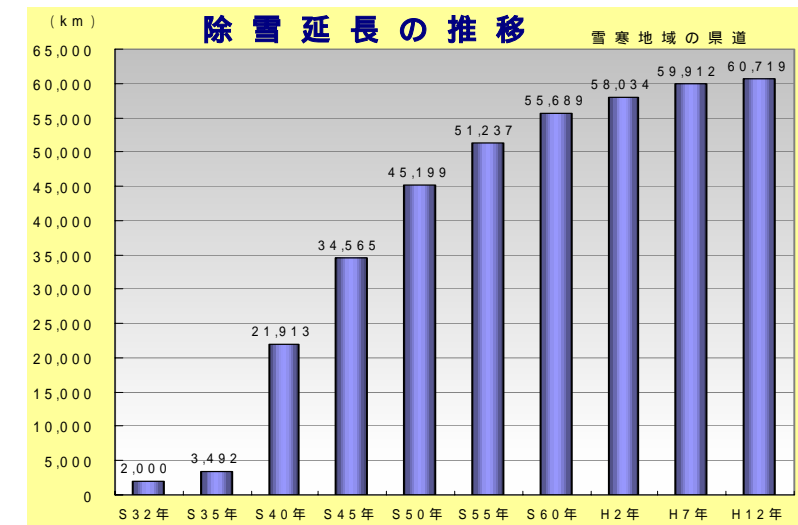


図16 車道除雪延長の推移(全国)

資料:国土交通省

夏期と冬期の旅行時間の違い

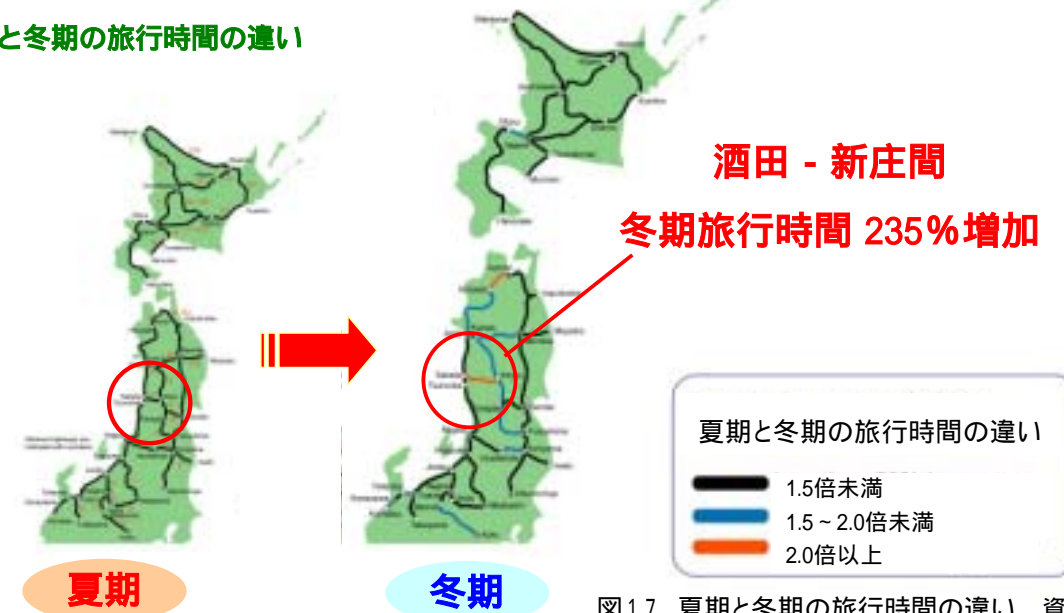


図17 夏期と冬期の旅行時間の違い 資料: H13年国土交通省

地域間交流を阻害する大きな要因

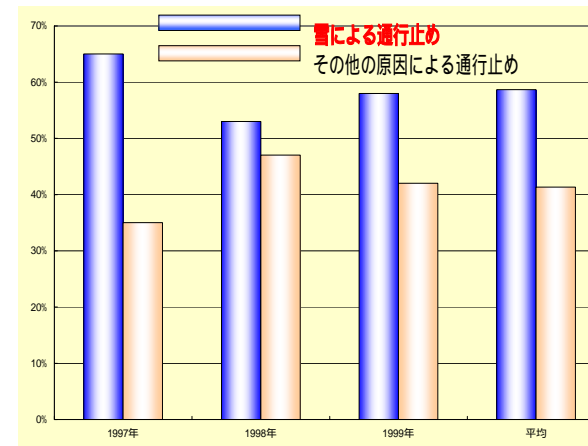


図18 高速道路の要因別通行止め

資料: (財)高速道路調査会



吹雪による視程障害

国道159号や同国道につながる国道8号で、スリップ事故の影響で、十二時間以上にわたり車内で缶詰状態となったため、車内の人に非常用の乾パン、茶などを配付



図19 町職員から非常用の乾パンを受け取るドライバー(津幡町地内)
出典:北國新聞2001年1月16日夕刊